

要旨

ヌル・アイニ・エリン.2016. 国立マラン第一高等学校の一年生におけるひらがなの理解と学習事項の書き取りの方法の有効性。ブラウイジャヤ大学、日本語教育。指導教師：Febi Ariani Saragih。

キーワード：有効性、書き取りの方法、ひらがなの理解。

本研究の背景として学生はひらがなの書くことはまだできないことがある。そこで、筆者は学生におけるひらがなの理解に関する学習事項の書き取りの有効性という課題を研究した。本研究の問題は学習事項のビデオの有効性の有無である。具体的には、学習事項の書き取りの方法を利用した後、学習事項の書き取りの方法について学生の反応はどうでしょう。

本研究の実験はまずあるクラスにのみ学習事項の書き取りの方法を用いた授業を行い、その後テストをする。という形で行った。回答者は 25 人で、実験は 3 回実施した。また、結果の測定にはテストの他にアンケートも使用し、量的分析の手法を用いて分析した。

実験の結果、学生のプリテストの平点が 79,8 であり、ポストテストの平点が 86 に増えることと分かる。そして、T テストによると t 算は t 表よりテストの点数が高いとすることができる。点数の比較は $t_{\text{算}} > t_{\text{表}} = 4,423 > 1,71$ である。有意推進が 0,05、df が 24 を表す。故に、学習事項の書き取りの方法は有効である。さらに、75%の非常に高い満点度を得られたことがアンケートの結果から見ることができた。

本研究の結果により筆者からのアドバイスとして教師に学習事項の書き取りの方法を教室で使ことを推奨する。そして、他の研究者には書き取りの方法の不足を最小化することができる。